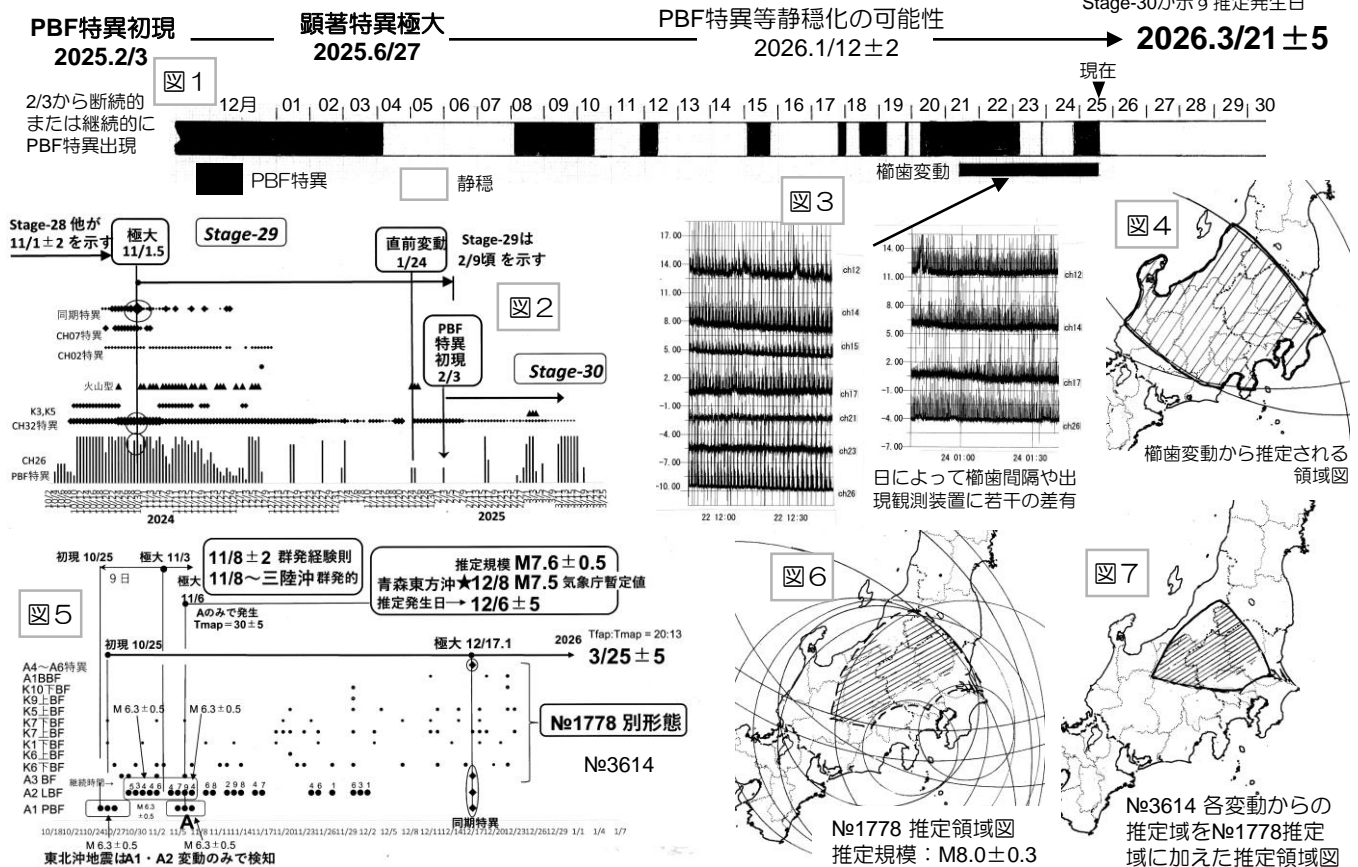


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、 $M7.3 \pm 0.5$ の地震が $1/2 \pm 2$ に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模 $M6.1 \pm 0.5$ 、海深補正 $M0.9 \pm 3$ 、推定規模 $M7.0 \pm 0.5$ ）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターン $Tmap=12$ 日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

◆東北沖での大型地震の可能性前兆変動が観測され、多数の観測情報を配信しました。結果は三陸沖での群発的プレート境界型地震でしたが、通常地震経験則で発生時期を推定致しましたが、前兆変動初現～変動極大に至る日数の半分の日数を極大日に加算する「群発地震経験則」（この場合は $11/8 \pm 2$ 発生となる）での発生となりました。推定した地震活動はトータルで断層長約350kmを推定致しましたが、実際は $11/8 \sim 11/12$ までで各地震の断層長計320kmほど（ $\log Lkm=0.5M-1.8$ Utsu.式使用）で綺麗に調和致しました。その後、再び前兆変動が観測されていることを前号冒頭に記しましたが、僅かな誤差内で、配信している観測情報に記した推定どおり、青森東方沖でM7.5地震として対応地震が発生致しました。変動検知・推定共に成功。図5参照。

No1778 長期継続前兆変動 Stage-30 再考 対応地震 2026.3/23 \pm 5 発生の可能性も有

極大を6/26.5から最大変動値の6/27.0に修正



◆No1778 Stage-30の変動=CH20・26のPBF特異は図1のとおり、本日12/25午後も継続出現しています。さらに図1の右下部に示したとおり、12/21か図3の様なハヶ岳の複数観測装置に同期する顕著な櫛歯変動が観測されています。櫛歯変動は、群発地震の前兆変動としても観測されますが、基本的には震源の深さが浅い日本列島の地殻地震発生の際に観測される変動です。No1778関連として出現が観測されています。しかし、今回の様な顕著な櫛歯変動は30年の観測の中では初めてです。今回の櫛歯変動からは図4の斜線域内での活動の可能性が示唆され、No1778推定域（図6）と調和しています。

◆本日現在もPBF特異変動が継続していることから、Stage-29の示す時期認識が誤りである可能性から再検討。図2のとおり2/3がPBF特異初現の可能性も考えられます。この場合、6/27極大との関係から2026.3/21 \pm 5 発生の可能性が示唆されます。これが正しい場合、現在のPBF特異変動は2026.1/12 \pm 2 時期に静穏化する可能性が示唆されます。

◆図5のNo3614変動は、東北沖地震前兆と重なって出現したNo1778の別形態変動です。12/17.1に観測された極大認識変動は秋田観測点の全観測装置に時刻同期で出現した短時間の特異変動です。No3614からは3/25 \pm 5発生が示唆されます。またNo3614の各種変動から推定される領域を、現在のNo1778推定域（図6）に加えた図が図7となります。より狭い範囲の可能性が現れました。

◆これからは、2026.3/23 \pm 5発生の可能性有。1/12 \pm 2にPBF特異（櫛歯も消えるかは不明）が静穏化するか確認することが重要です。続報します。